

公正な事業慣行

基本的な考え方

当社は「ライオン企業行動憲章」、「行動指針」に則り、「公正、透明、自由な競争、ならびに適正な取引」および「政治・行政との関係における健全で正常な関係の維持」に努めるとともに、取引先に

おける法令遵守についても要請しています。さらに、2009年に国連グローバル・コンパクトの10原則の支持を表明し、贈収賄などの腐敗の防止への姿勢を明確にしています。

CSR調達の推進

当社は、サプライチェーンにおける取り組みにおいて、原材料メーカーや生産委託先との連携を強化することが重要な課題のひとつであると考えています。事業活動の環境や社会に対するマイナスの影響を低減させ、お互いの事業を持続的に発展させるため、取引先と当社とがサステナビリティを深化させることが必要です。

また、当社の主要な植物油脂原料であるパーム油において、持続可能な調達を推進することが重要であると認識し、取り組みを進めています。

植物資源への代替推進

当社は独自に、再生可能な植物由来原料「MES」・「MEE」*を開発し、衣料用洗剤などの商品に使用しています。今後も植物原料の活用に努めます。

* MES：アルファスルホ脂肪酸エステルナトリウム
MEE：ポリオキシエチレン脂肪酸メチルエステル

[石油からの植物資源への代替推進]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/climate/>

● 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進

当社は、責任ある調達活動を推進するため、原材料メーカーおよび生産委託先へ「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」に基づくセルフチェックを毎年依頼しています。人権・労働、環境、公正な事業慣行、消費者課題、コンプライアンスに関するサプライチェーンにおけるリスク回避に向けた仕組みづくりを推進しています。

2014年よりセルフチェックをすべてWeb上で実施できるようオンライン化し、より効率的に取引先が回答できるようにしました。また、結果のフィードバックを回答いただいた取引先に送り、継続的にCSR調達を推進できる体制を確立しています。

今後も取引先とともにサステナビリティへの取り組みを推進します。

ライオングループサプライヤーCSRガイドライン

以下に示す5主題、21項目のガイドライン。

1. 人権・労働
2. 環境
3. 公正な事業慣行
4. 消費者課題
5. コンプライアンス

URL 日本語 <http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/jpn.pdf>

英語 <http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/eng.pdf>

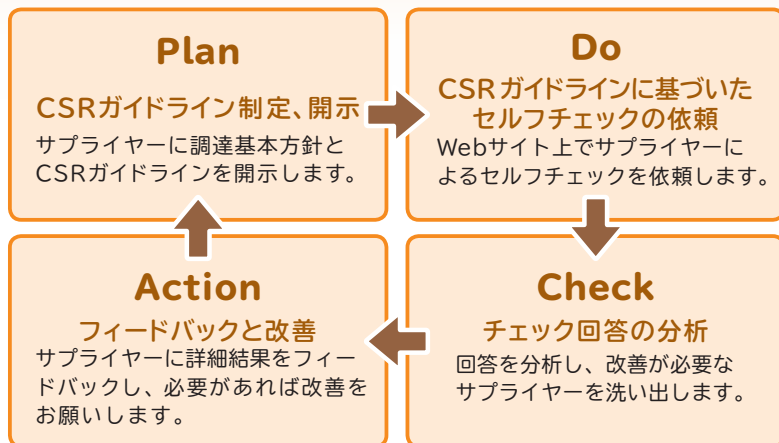
中国語 <http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/cn.pdf>

● CSR調達の取り組み年表

2005年	原材料や製品の適正な調達のための「購買に関する基本方針」を制定。
2008年	社会面、環境面への配慮をより明確にした「調達基本方針」を制定。国内外の原材料メーカーや生産委託先にコンプライアンス、製品サービスの品質・安全性、環境配慮、労働・人権、公正な取引に関する企業活動のアンケートを実施。
2013年	「調達基本方針」を改訂し、法令遵守、環境保全、人権尊重などからも取引先を選定する姿勢を明確化。原材料メーカーや生産委託先に期待するサステナビリティへの取り組みを示した「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」を制定し、取引先に自社のサステナビリティへの取り組みのセルフチェックを依頼。
2014年	CSRのセルフチェックをすべてWeb上で実施できるようオンライン化。

[調達基本方針] URL <http://www.lion.co.jp/ja/company/compliance/procurement.php>

● サプライヤーCSRセルフチェックにおけるPDCAサイクル



サステナビリティに取り組む重要性をサプライヤーに理解いただくため、セルフチェックの依頼文書において、サステナビリティを取りまく情勢の説明を記載するなど工夫をしています。セルフチェックは取り組みの程度に応じた3段階のチェック基準と用語解説を設けています。

結果概要

- 2017年の回答率は99%、平均点は1~3点の3段階で2.74点と、サプライチェーン全体でサステナビリティに取り組んでいることが確認できました。
- 未回答の5社のサプライヤーに対しては、ヒアリングなどを通じて協力をお願いしています。

● 持続可能なパーム油の調達を目指して

当社は、枯渇することがなく、カーボンニュートラルな原料である植物原料の活用を積極的に進めており、その植物原料のひとつとして、世界で最も生産量の多い植物油であるパーム油の誘導体を使用しています。パーム油は主にマレーシアやインドネシアで生産されています。

パーム油は生産性が高く年間を通じて収穫できることから生産量は年々増加していますが、生産地においては急激な生産拡大にともない、新規農園開発のための熱帯雨林の伐採やそれともなう野生生物の生息地の縮小などの問題が生じています。また不適切な農園経営による、健康や安全への配慮が乏しい劣悪な労働環境や、低賃金、移民労働者の不当な扱い、児童労働など、社会的公正を欠くさまざまな労使問題も指摘されています。

このような問題の解決に向けた「持続可能なパーム

油のための円卓会議（RSPO）」に、当社は2006年から参画しています。2012年には、パーム油が納入されるライオンケミカル（株）オレオケミカル事業所が、RSPO認証パーム油の取り扱いができる工場としてサプライチェーン認証システム審査に合格し、認定を受けました。これに基づいて当社は2012年からRSPOの認証が得られたパーム油の調達を開始しました。当社は2015年末までに、使用するパーム油をすべて認証油に切り換えることを目標に掲げ、2014年7月より購入パーム油を全量認証油化し、目標を達成しました。2017年は2020年目標の達成に向けてRSPO認証パーム油誘導体を継続購入しました。今後も持続可能なパーム油の調達に向けて取り組みます。

目標

2020年：パーム油誘導体全量をRSPO認証化

RSPO Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議)

RSPOでは、「環境に対する責任と資源及び生物多様性保全」「新規プランテーションにおける責任ある開発」「農園、工場の従業員および、影響を受ける地域住民への責任ある配慮」などの持続可能なパーム油生産に求められる8原則と基準を定めており、これを満たして生産されるパーム油のみを持続可能なパーム油として認証している。

URL <http://www.rspo.org/>

Webサイトのご紹介

お取引先様とともに
<http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/>

